

## 第四紀研究投稿規定

(2011年8月26日, 2013年8月22日評議員会一部改正)

### 1. 投稿資格

投稿者の少なくとも1人は投稿時に本会会員であること。ただし、編集委員会による依頼投稿の場合はこの限りではない。

### 2. 第四紀研究に投稿しうる原稿

内容が日本第四紀学会倫理憲章前文にある第四紀に関わるものであり、体裁が別に定めた「執筆要項」に合致する、と編集委員会が認めたもの。

2-1. 言語：日本語または英語。

2-2. 原稿の種類

**論説 Article**：投稿者自身によるオリジナルで未公表の研究成果をまとめたもの。

**短報 Short Article**：研究の中間報告など大きな研究の一部をなすもの、および速報性を必要とするもの、および資料として特に重要なもの。

**総説 Review**：ある分野に関する研究成果を総覧し、総合的にまとめ、研究史、研究の現状、将来への展望などにふれたもの。

**討論 Discussion**：本誌に掲載された論説・短報・総説などについて、投稿原稿のかたちで1年間、コメント(賛否・注釈・質問など)を受付け、編集委員会の判断により、意義のあるものを誌上に公開する。必要に応じて、原著者の回答も掲載する。

**資料 Note**：露頭・化石・遺物・景観などのスケッチ・写真および第四紀学的に貴重な標本・資試料などに平易な説明をつけたもの。

**口絵 Pictorial**：第四紀学に関連する露頭・化石・遺物・景観などの写真や重要な図などに簡単な説明をつけたもの。ただし、カラー化によって情報を出すことが不可欠であると編集委員会が認めたものに限る。

**解説 Comment**：第四紀学に関連するテーマ・用語などについての解説。

**講座 Lecture**：ある分野の研究の現状・成果や調査法・分析法などを、特に他分野の会員に紹介・普及する目的で平易に書かれたもの。

**書評 Book Review**：単行本などの内容の紹介および批評。

**雑録 Miscellany**：学会もしくは第四紀学に関する記事・報告など。ただし、編集委員会が認めたものに限る。

2-3. **原稿の長さ**：総説は刷り上がり18ページ以内、論説・講座は16ページ以内、短報は6ページ以内、討論・解説・資料は4ページ以内、口絵・書評は2ページ以内とする。なお、刷り上がり1ページは25字×43行×2段である。やむを得ず超過した場合は、その費用は依頼原稿を除き著者の負担とする。

2-4. **電子付録**：著者の申し出があり、かつ別途定める第四紀研究電子付録掲載要項に基づいて編集委員会が適当と判断する場合、原稿の掲載にあわせて、原稿の内容の一部を第四紀研究電子付録として日本第四紀学会ホームページに掲載することができる。

### 3. 二重投稿・著作権

3-1. ほかの出版物に掲載済み、または投稿中の原稿は投稿できない。ただし、「第四紀研究」にふさわしく書き直されたものはこの限りではない。

3-2. ほかの出版物と重複した内容を持つ原稿は、投稿時に必ずその旨を明記し、投稿者自身で著作権問題を解決し、かつそれを示す資料を添える。

3-3. ほかの出版物より図・表などを引用する場合は、転載許可を受けるなど、投稿者自身が著作権問題を解決しておくものとする。

3-4. 掲載された論文の著作権(著作財産権, copyright)およびすべての媒体を通じての公表に関する権利は、著者が著作権等譲渡同意書に必要な署名をすることにより、日本第四紀学会に帰属するものとする。

3-5. 日本第四紀学会が著作権を保有する著作物を利用するにあたっては、別途定める出版物利用規定に従い、日本第四紀学会からの受諾を得る

ものとする。

#### 4. 投稿手続き

投稿者は封筒に「第四紀研究原稿」と明記して原稿・図・図版・表・送り状のコピー3部とその電子ファイルを、必要な署名がされた投稿原稿内容の保証書とともに、編集委員会（本規定の末尾および会誌奥付の学会事務局の住所）に送付する。なお、編集委員会から要請があった場合には、図・図版・表の原図を提出する。

#### 5. 受付

編集委員会が原稿を受けとった日を受付日とする。

#### 6. 受付後の原稿の処理

- 6-1. 編集委員会は、投稿原稿の内容に応じてレフェリーを決め、査読を依頼する。
- 6-2. 編集委員会は、査読結果を参考に原稿の内容・表現に問題があると判断したときには、投稿者に修正を求めることができる。また「執筆要項」に従い、用語・用字などを変更することがある。活字の種類・大きさ、図表の大きさや全体の体裁は、編集委員会が決める。
- 6-3. 原稿が修正のため投稿者の手元にかえったまま、6ヶ月経過したときは、その投稿原稿は取り上げられたものとみなす。
- 6-4. 投稿原稿の受理は編集委員会が決める。編集委員会が掲載を決定した日付をもって受理日とする。投稿者は、編集委員会から投稿原稿受理の通知があった場合には、著作権等譲渡同意書に必要な署名をし、最終原稿とともに提出する。これにより、掲載が許可される。
- 6-5. ワードプロセッサ使用の原稿は、受理時の最終原稿の電子ファイルを提出する。
- 6-6. 受理後、原稿の細部の体裁は、編集委員会が調整・判断し、修正を求めることがある。
- 6-7. 投稿原稿の掲載不可は編集委員会が決める。掲載不可となった原稿・図・図版・表などは返却する。

#### 7. 校正

著者校正は初校時のみ行う。著者校正時の加筆は原則として認めない。著者は、初校ゲラを受け取ったら速やかに校正を行ない、編集委員会(編集

書記)に返送する。期日までに返送がない場合は、著者校正を省略するか、次号にまわすこともある。

校正時の著者責任による図・表等の差し替えにかかる費用は全額著者負担とする。

#### 8. 別刷

別刷は50部単位で希望することができる。別刷費用については別途定める。掲載された原稿の電子ファイル(PDFファイル)は著者(論文責任者)に提供される。

#### 9. 原稿の返却

掲載された原稿・図・図版・表などは返却しない。掲載されなかった原稿・図・図版・表などは返却する。

#### 10. 投稿規定の改正

この「投稿規定」の改正は、幹事会が原案を作り、評議員会に報告して承認を求める。「執筆要項」および「電子付録掲載要項」は編集委員会がこれを定め、改正があったときは幹事会に報告し、承認を求める。

\*上記の投稿規定 2-3 超過分の著者負担は、1 ページにつき 10,000 円とする。

\*原稿送付先: 〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 10 階日本第四紀学会編集委員会

付則 本規定は2014年1月1日から実施する。

## 執筆要項

### 1. 原稿

使用する言語は日本語、または英語とする。印刷用紙はA4判を使用し、ワードプロセッサで作成する。日本語の場合は1ページ25字×22行で印字し、行間は1行分程度あけ、用紙の上下・左右に余白を十分とる。英語の場合は12ポイント、22行で印字する。1ページ目に表題、著者名、ランニングタイトルを、2ページ目から摘要、キーワードを記入する。なお、原稿にはページ番号を入れること。

### 2. 表題・著者名

著者名の右肩に<sup>\*</sup>、<sup>\*\*</sup>……の記号をつけ、原稿の1ページ目の下部に所属とその所在地、論文責任者の連絡先(住所・Eメールアドレスなど)を明記する。なお、英文タイトルに用いる大文字は、タイトルの先頭と固有名詞の先頭のみとし、他は小文字を用いる。

### 3. ランニングタイトル (欄外表題)

1ページ目の中段に表題と著者名のそれぞれについてランニングタイトルを入れる。ランニングタイトルは各ページの欄外に掲載する短い表題と著者名のことである。本文が日本語の場合には30字以内、英語の場合には8語以内とする。

### 4. 摘要・キーワード (改ページ)

- 4-1. 摘要 は原稿のページを改めて書き始める。
- 4-2. 論説・短報・総説には、本文と同じ言語で内容の要点をまとめた摘要(abstract)をつける。
- 4-3. 摘要の長さは、本文が日本語原稿の場合は400字以内、本文が英語原稿の場合は300語以内とする。
- 4-4. 英語の摘要には、すみやかに校閲するために日本語対訳を別紙で添える。ただし、この対訳は印刷されない。
- 4-5. すべての種目の原稿には、時代・地域・対象・方法などを表す5語程度のキーワード(keywords)を本文と同じ言語でつける。

(例) キーワード: ナイフ形石器, 完新世, 大阪層群, 関東平野, 花粉分析

Keywords: backed-blade, Holocene, Osaka Group,

Kanto Plain, pollen analysis

### 5. 本文 (改ページ)

- 5-1. 本文は原稿のページを改めて書き始める。
- 5-2. 文章は現代かなづかい、常用漢字を用いる。ただし、固有名詞や慣用句はこの限りではない。
- 5-3. 句読点などは、 $\cdot$ 、 $\cdot$  : ; 「」 ( ) - を用い、本文ではそれぞれ1字分をあてる。
- 5-4. 学名・人名・地名・(訳語が定着していない)術語などを除き、外国語綴りあるいはそのカタカナ表記は避ける。
- 5-5. 生物の和名は初出時に原則として学名を併記する。
- 5-6. 地名などの漢字で読み誤るおそれのあるものには、ふりがなをつける。
- 5-7. 数量の単位は原則としてSI単位を用いる(例: m, kg, m/s<sup>2</sup>, Hz, °C, mol)。その他の略号については慣例に従う(例: <sup>14</sup>C, 年BP, yrs BP, cal BP, Ma, ka, Å, ca., vs., etc.)。
- 5-8. 緯度・経度の表記は世界測地系(日本測地系2000=Japanese Geodetic Datum 2000)を原則とする。特別に必要な場合には測地系を明示して使用する。
- 5-9. 英語で原稿を執筆する場合には、適切な校閲をうけた原稿を投稿する。
- 5-10. 次の字体はあらかじめ指定しておく。なお、章立てなどの見出しの太文字は、編集委員会で指定する。
  - i) 生物の学名などイタリック体で印刷される字体は、下線を引く。
  - ii) まぎらわしい文字は誤読防止の指示を鉛筆で記入する(例: 1-エル, 1-イチ, I-アイ,  $\alpha$ -アルファ,  $\gamma$ -ガンマ, w-小文字, W-大文字)。
  - iii) 数式の場合は、特に上ツキ, 下ツキ, および大文字・小文字・イタリック体などの指定をする。
- 5-11. 脚注は原則として認めない。ただし、やむを得ず脚注をつける場合には、その箇所に通し番号で<sup>1), 2)</sup> …の記号をつけ、別紙にまとめて書く。
- 5-12. 原稿には行番号をつける。

### 6. 図

- 6-1. 図にはそれぞれ図1, 図2, Fig.1, Fig.2のように番号をつける。また、本文の右側に挿入希望位置を

記入する。

- 6-2. 図はインクで明瞭に書かれたものか、これと同程度のもので、そのまま写真製版が可能なものに限る。
- 6-3. 原図の大きさはA4判大とする。小さい図(表)の場合でもA4判大の用紙に書くか、貼る。図には著者名と図番号を明記する。
- 6-4. 図の内容の大きさを示す場合には、図にスケールを入れる。
- 6-5. 図の縮小率は編集委員会で決めるが、希望縮小率(実際に縮小して確認のこと)を鉛筆で添え書きできる。一般には1ページ幅(14.5×20.0cm)またはその半幅(7.0cm)に縮小することが多いので、縮小後も明瞭に見えるように線の太さ、文字の大きさに注意する。また、空白部分とキャプションの量のバランスにも注意する。コンピュータで作図する際には、複雑な模様の使用は避ける。特にグラデーションは、印刷時に意図どおりに出るとは限らないので極力避ける。
- 6-6. 地図を使用する場合には、必ず方位を示す記号と縮尺を示すスケールを入れる。方位を示す場合は、真北と磁北のいずれかの区別が明らかな記号とする。
- 6-7. 凡例はその説明とともにできるだけ図中に入れる。
- 6-8. 受理後の最終原稿の図は電子ファイルでも提出できるが、印刷したものを必ず添付する。

## 7. 表

- 7-1. 表には、表1、表2、Table 1、Table 2のように番号をつける。本文右側に挿入希望位置を記入する。
- 7-2. 表は、縦・横の罫線による枠組みの中に文字や記号を記入したものに限る。罫線間の長さに意味がある場合や曲線を含むもの、枠の中に図が書かれたものは「図」扱いとなる。表はそのまま写真製版が可能なものに限る。
- 7-3. 表のキャプションは表の意味を簡潔に表すだけのものとする。凡例などの説明は表の下に入れ、表と一体のものにする。
- 7-4. 受理後の最終原稿の表は電子ファイルでも提出できるが、印刷したものを必ず添付する。

## 8. 図版

- 8-1. 図版は、図版として示すべき十分な理由があり、

かつ原図が鮮明なものに限る。

- 8-2. 図版は1ページごとに図版I、図版II、Plate I、Plate IIのように番号をつける。
- 8-3. 横と縦の印刷サイズは14.5×20cmとなるから、できるだけこの比率になるように写真原稿を白い台紙に貼る。図版の内容の大きさを示すスケールを入れる。
- 8-4. 受理後に提出する最終原稿の図版は電子ファイルでも提出できるが、印刷したものを必ず添付する。

## 9. カラー図・カラー図版

編集委員会でカラー図・カラー図版を認めることがある。著者はその旨を投稿時に申し出ること。費用は著者負担とする。

## 10. キャプション(図表などの表題や説明文)

別紙にまとめて書く。日本語論文の場合でも日本語のほか英語キャプションをつけることができる。

## 11. 引用

- 11-1. 文中の引用は次の例にならう。

これらの研究(湊・陶山, 1950; 多田, 1975; 松井ほか, 1977)によると……………

……………という結論が得られている(Cox and Dalrymple, 1967).

小林(1951a, b), 湊(1974)の研究によれば……………とMiller(1970:p.25-26)は述べている。

- 11-2. 卒業論文・修士論文は原則として引用しない。
- 11-3. 投稿中であっても受理されていない論文は引用しない。なお、本誌の特集号などのように、同一のテーマに関連した論文を同一号に集める必要があると編集委員会が認める場合にかぎり、未受理の段階での引用を認めることがある。受理後未刊行のものについては(印刷中)、(in press)として引用することができるが、投稿時に当該論文のコピーと受理通知書(コピー可)を添付する。ただし、オンラインで先行公開されている場合には、その旨と当該論文のDOI(Digital Object Identifier)を編集委員会へ通知するだけでよい。
- 11-4. ホームページの引用は原則として公的機関等が運用するものからのみとし、URLと、表題、参照した日付を引用文献に明記する。

## 12. 引用文献

12-1. 引用文献は、日本語・英語を問わず著者のアルファベット順にならべる。同一著者の場合は年代の古い順にならべ、年代が等しい場合は本文の引用順に a, b……をつける。印刷中 (in press) として引用した論文をもっとも新しいものとして扱う。同一著者が筆頭著者となった共著論文が引用されている場合には、単著論文を前にする。2名の共著論文では、筆頭著者と第二著者のアルファベット順とし、同一組み合わせの場合には年代の古い順にならべる。3名以上の場合には、第二著者のアルファベット順位にかかわらず年代の古い順とする。3名以上の著者が同一の年に出した複数の論文が引用されている場合には、引用順に a, b, c をつける。例えば、本文中では引用の順に BB ほか (2004a), BB ほか (2004b) と区別し、引用文献欄では、以下のように並べる (B, A, C はアルファベットを表す)。

BB・CC・AA (2004a)・・・

BB・AA・CC (2004b)・・・

12-2. 雑誌名は原則として完記する。

12-3. 雑誌の巻数は数字のみとする。巻・号のある雑誌で通巻ページの場合、号数は省略する。毎号ページが変わる場合には号数を ( ) に入れ、例えば、10(2) のようにする。号のみの場合は no. を付して記載する。

12-4. ページの表記については、単行本の総ページを示すときは 25 p, 単行本および論文集の該当ページを示すときは、コロン(:)に続き 10-25 のようにする。単行本からの引用など、その他の表記は引用文献の例にならう。

12-5. 学術雑誌などの電子出版物を引用する際には、特定の引用表記方法が指定されている場合を除いて、通常の印刷出版物と同様の表記とする。印刷出版物と電子出版物が同時に出版されている場合には、原則として印刷出版物を引用する。

12-6. 日本語論文における引用文献の例

Cox, A. and Dalrymple, G.B. (1967) Geomagnetic polarity epochs, Nunivak Island, Alaska. *Earth and Planetary Science Letters*, 3, 173-177.

Embleton, C. and King, C.A.M. (1957) Periglacial

geomorphology. 230p, Halsted Press.

藤原 治 (2004) 津波堆積物の堆積学的・古生物学的特徴 藤原 治・池原 研・七山 太編「地震イベント堆積物—深海から陸上までのコネクション」, 地質学論集 no. 58, 35-44.

貝塚爽平・鈴木毅彦 (1992) 関東ロームと富士山. 土と基礎, 40 (3), 9-14.

川辺禎久・坂口圭一・斎藤 眞・駒澤正夫・山崎俊嗣 (2004) 20 万分の 1 地質図幅「開聞岳及び黒島の一部」. 産業技術総合研究所地質調査総合センター.

小林国夫 (1951a) フォッサ・マグナ西部付近に於ける第四紀編年. 信州大学文理学部紀要, 1, 9-25.

小林国夫 (1951b) 常念岳東方の断層地層に関する一考察. 地理学評論, 24, 377-381.

国土地理院 (1997) 数値地図 50m メッシュ (標高) 日本-II. CD-ROM 版.

小松原 琢・中澤 努・兼子尚知 (2004) 木更津地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 64p, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.

Lisiecki, L.E. and Raymo, M.E. (2005) A Pliocene-Pleistocene stack of 57 globally distributed benthic  $\delta^{18}\text{O}$  records. *Paleoceanography*, 20, PA1003, doi:10.1029/2004PA001071.

メイスン, S. (矢島祐利訳) (1955) 科学の歴史. 695p, 岩波書店.

松井 健・杉村 新・渡辺直経 (1977) 日本第四紀学会史. 日本第四紀学会編「日本の第四紀研究」: 1-9, 東京大学出版会.

Miller, H. (1970) Method and results of river terracing. Dury, G.H. (ed.) *Rivers and river terraces*: 19-35, Macmillan.

湊 正雄 (1974) 日本の第四系. 167p, 築地書館.

湊 正雄・陶山国雄 (1950) 沖積世の問題. 地球科学, 3, 1-16.

能城修一・鈴木三男 (1989) 野川中洲北遺跡の木材遺体群集. 小金井市遺跡調査会編「野川中洲北遺跡—自然科学分析編」: 69-93, 小金井市遺跡調査会.

National Geophysical Data Center (2006) 2-minute gridded global relief data (ETOPOv2).

- <http://www.ngdc.noaa.gov/mgg/fliers/01mgg04.html>, 2008年3月17日引用.
- Olscheky, K.S. and Laws, R.A. (2006) Data report: Pliocene-late Pleistocene diatom biostratigraphic data from ODP Leg 185, Hole 1149A. Ludden, J.N., Plank, T. and Escutia, C. (eds.) Proceedings of Ocean Drilling Program, Scientific Results, 185(2), 1-31.
- 奥野 充・松島義章・長岡信治・森脇 広・新井房夫・中村俊夫 (1998) 南九州, 鹿児島湾の燃島貝層中のベッコウガキの加速器  $^{14}\text{C}$  年代. 福岡大学理学集報, 28, 123-128.
- 奥野 充・松島義章・長岡信治・福島大輔・成尾英仁・森脇 広・小林哲夫 (2000) 始良カルデラ東壁にみられる最近 10 万年間のテフラ. 火山, 45, 41-46.
- 相模原市教育委員会 (2003) 田名向原遺跡 I. 87p, 相模原市教育委員会.
- Stow, D.A.V. and Piper, D.J.W. (eds.) (1984) Fine-grained sediments: deep-water processes and facies. 659p, Geological Society, Special Publication, no.15, Blackwell.
- 多田文男 (1975) 日本における砂丘研究史. 日本第四紀学会講演要旨集, no. 4, 25-26.
- <博士論文等の未公表論文の引用例>
- Kubo, S. (1995MS) Buried terraces in the lower Sagami Plain, central Japan: Indicators of sea levels and landforms during the Marine Isotope Stage 4 to 2. Doctoral dissertation to Tokyo Metropolitan University, 147p.
- 12-7. 英語論文における引用文献の書き方の例  
本文が英語の場合, 引用文献リストには, 日本語のみの論文には(J)を, 英文の abstract がある日本語の論文には(J+E)を各論文の最後につけ, リストの最後に一行あけて, (J) in Japanese, (J+E) in Japanese with English abstract. と記す.
- Kamei, T. (1962) Some problems on the succession of the Quaternary mammalian faunas in Japan. Earth Science (Chikyu-kagaku), 60・61, 23-34. (J+E)
- Kamei, T. (1979) An aspect on the Cenozoic mammals in the Japanese Islands. Honyurui Kagaku (Mammalian Science), 38, 1-11. (J)
- (J) in Japanese, (J+E) in Japanese with English abstract.
- ### 13. 要旨
- 13-1. 論説・総説・短報には, 本文と異なる言語(英語論文の場合は日本語)で, 内容を要約した要旨(summary)をつける. 要旨の長さは刷り上がり1ページ以内とする. なお, 短報の場合には省略することができる.
- 13-2. 本文と異なる言語の表題, 著者名, 要旨, キーワード, そして, 著者名の右肩に\*1,\*2……の記号をつけ, 著者の所属とその所在地, 論文責任者の連絡先(住所・Eメールアドレスなど)を書く. なお, 英文タイトルに用いる大文字は, タイトルの先頭と固有名詞の先頭のみとし, それ以外は小文字とする. 著者の姓名は完記する.
- 13-3. 英語要旨には, すみやかに校閲するために日本語対訳を別紙で添える. ただし, この対訳は印刷されない.
- 付則 本要項は2012年1月1日から実施する

## 第四紀研究電子付録掲載要項

(2013年8月22日評議員会制定)

### 1. 第四紀研究電子付録の内容と条件

第四紀研究電子付録 (JAQUA Supplementary material) は、「第四紀研究」掲載原稿の内容の一部をなす図・表・図版・文字記述の電子ファイルであり、日本第四紀学会ホームページにアクセスできるすべての者に対して無償で配布される。また、第四紀研究電子付録 (以下、電子付録とする) は、次の1-1から1-5の条件を全て満たすものとする。

- 1-1. 日本第四紀学会員を含むインターネットからのアクセスに対して公開することに一定の価値・意義が認められること。
- 1-2. 著者によるオリジナルのものであること。
- 1-3. 調査・実験・解析・計算等の一次データや事実の記載等であること。
- 1-4. 掲載予定原稿に、非常に重要な補助的情報であること。
- 1-5. 事前・同時に他所で公表して引用することが困難な内容と認められること。

### 2. 投稿時の指定と本文での引用

著者は、投稿時にあらかじめ電子付録とする図・表・図版・文字記述を指定し、通常の投稿原稿の図・表・図版と同様の形態で提出する。また、原稿の本文ではこれらを必ず引用する。

(例) ……の結果を示す (図S1, 表S1, 図版S1, 付録S1, 英語論文の場合は, Fig. S1, Table S1, Plate S1, Appendix S1)。

### 3. 掲載の決定

編集委員会は、当該投稿原稿の受理審査時に電子付録の掲載の可・不可を決定する。

### 4. 電子ファイルの形式と提出

著者は、受理された電子付録を編集委員会の指定する電子ファイルの形式に変換し、編集委員会が指定した期日までに提出する。

### 5. 掲載と掲載後の変更

日本第四紀学会は、提出された電子ファイルを電子付録として日本第四紀学会ホームページの定められた場所に掲載する。編集委員会は、日本第四紀学会ホームページに掲載された電子付録について、内容の変更を伴わない表示形式等の変更以外、その内容の変更は行わないが、掲載中止は行える。著者は掲載された電子付録の内容の変更を編集委員会に書面にて求めることができる。編集委員会は、求められた変更の妥当性を審査し、適当と判断した場合には内容を変更する。

付則 本規定は2014年1月1日から実施する。